

令和4年度福島県男女共生センター 地域課題調査・研究事業

福島県浜通りに居住する女性高齢者の 災害時の避難行動意図に関する調査研究

福島県立医科大学

浅尾 章彦

(作業療法士, 防災士)



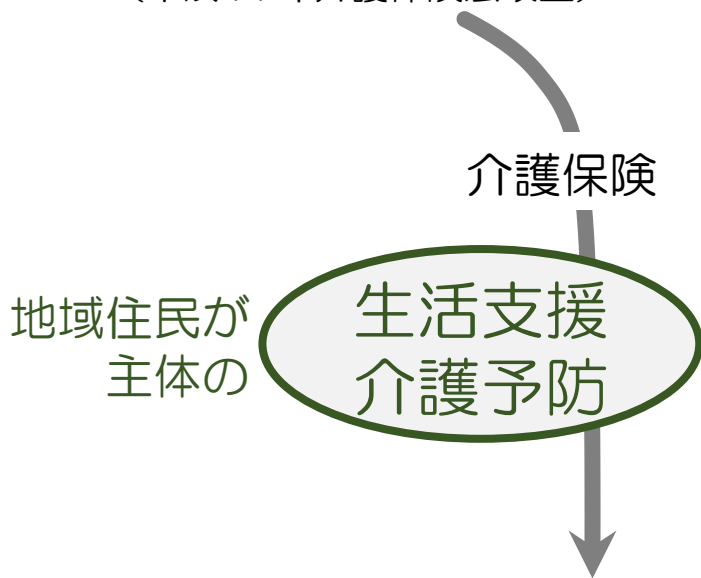
福島県立医科大学
FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

地域で支える高齢者のケアと防災

【高齢者のケア】

地域包括ケアシステム

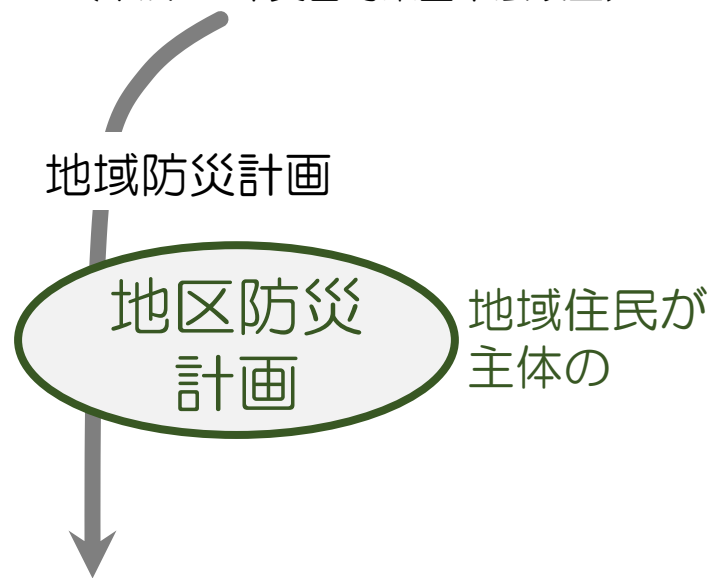
(平成17年介護保険法改正)



【高齢者の災害対策】

地区防災計画

(平成25年災害対策基本法改正)



公	助
共	助
互	助
自	助

地域住民が自主的に地域の生活を支える仕組みづくり



男女共同参画と災害対策

- 福島県：ふくしま男女共同参画プラン（令和3年12月）
- 基本目標 I 復興・防災における男女共同参画の推進
 - 避難所の運営や防災の取組を進めるにあたっては、**男女のニーズの違いや多様な背景を持つ人々のニーズを把握**するとともに、それぞれの視点に十分配慮することが必要
- 福島県：避難所運営マニュアル作成の手引き（令和3年3月改訂）
- 第6章 男女共同参画の視点からの避難所運営
 - **女性の目線から安心して過ごせる避難所の実現**を目指して（中略）
各種団体との間で平常時から問題意識を共有し、地域での避難所マニュアル作成の参考とすることが考えられます

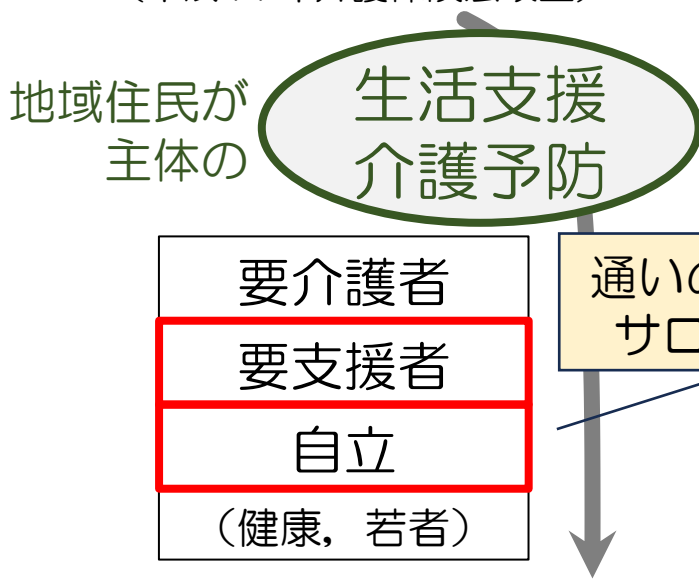


地域で支える女性高齢者の生活と防災

【高齢者のケア】

地域包括ケアシステム

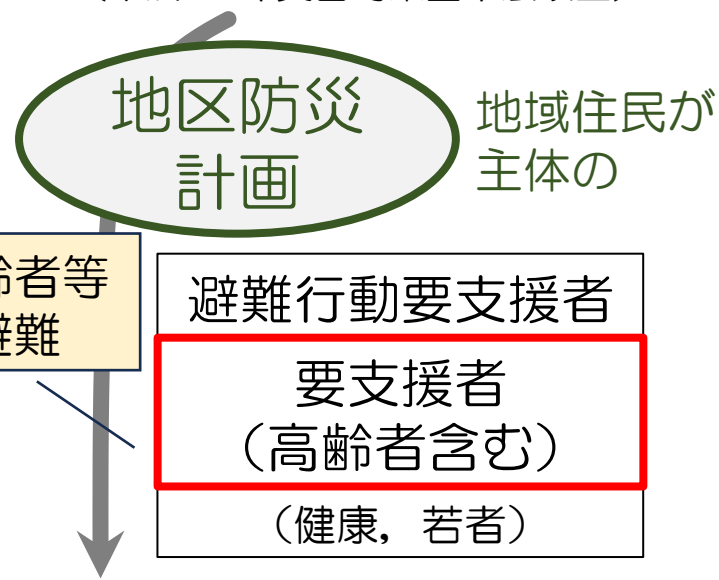
(平成17年介護保険法改正)



【高齢者の災害対策】

地区防災計画

(平成25年災害対策基本法改正)

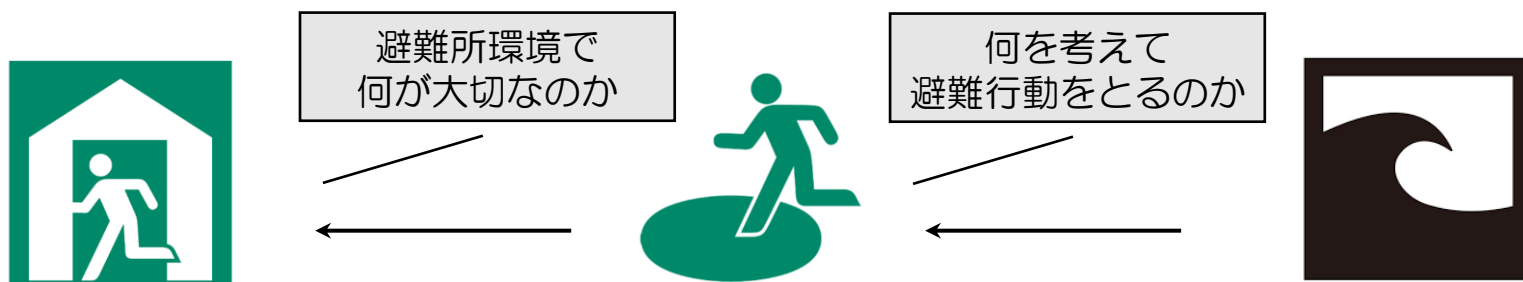


地域で暮らす健康な“女性”高齢者をどう支援すべきか？



本調査研究の目的

- 福島県に在住する健康な女性高齢者が
 - 災害発生時にスムーズな避難行動を誘導するには？
 - 避難先（避難所）で快適に生活するための環境は？
- を明らかにするための基礎資料を作成する



本調査研究の概要

- 地域：福島県浜通り（相双地域）沿岸部
- 対象：健康な高齢者
- 期間：令和4年10月～令和5年3月
- 内容：アンケート調査

1. 避難行動意図の大きさ

- 避難行動を起こす際に何をどれくらい考慮するか？

2. 避難所の各環境に対する重要さ

- 避難所の環境や運営のどんな内容がどれくらい重要か？

相双地域北部（相馬地域）
の自治体に調査協力を依頼



調査の対象者

相双地域北部（相馬地域）の自治体に調査協力を依頼

協力可能な自治体において、
津波ハザードマップ浸水想定地域内の通いの場や運動教室に参加する高齢者

研究協力者 77名
※アンケートに全て回答

男性高齢者 7名

女性高齢者 70名

※単純集計を実施

本発表では以下3点について報告

- 回答者属性
- 避難行動意図の大きさ
- 避難所の各環境の重要さ



調査の内容：避難行動意図の大きさ

- 平常時の避難行動意図に関する調査フレーム（宇田川ら，2019）
 - 避難行動意図に関する認知的要因
 1. リスク認知…土砂災害や津波発生時に自宅にいた場合のリスク
 2. 効果評価…自宅を離れて避難場所まで到達できた際に得られる防災効果
 3. 実行可能性…避難場所までたどり着くことが可能かどうかの認知要因
 4. コスト…自宅を離れて避難場所へ移動することを抑制する心理要因
 5. 記述的規範…平常時に目撃できる事態から規定される信念
 6. 主観的規範…ある行動をすべきと周囲に期待されているかの規範的信念
- 計18問に「全くそう思う」～「全くそう思わない」の4件法で回答



調査の内容：避難所の各環境の重要さ

- 避難所チェックシート。災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～（内閣府男女共同参画局，2020）
 1. 避難所のスペース（26項目）
 2. 避難所の運営体制・運営ルール（9項目）
 3. 暴力防止・安全の確保（6項目）
 4. 衛生環境・感染症予防（5項目）
 5. 在宅避難者を含む指定避難所以外の避難者への支援（4項目）
- 45項目に「とても重要」～「全く重要でない」の4件法で回答



調査の結果：回答者の属性

	度数	(%)
年齢		
60代	5	7.1
70代	34	48.6
80代	29	41.4
90代以上	2	2.9
介護保険		
非該当	67	95.7
要支援1または2	1	1.4
要介護1以上	2	2.9
外出手段		
歩行（杖や歩行器を含む）	10	14.3
自転車（電動自転車含む）	1	1.4
バイク（原動機付自転車含む）	2	2.9
自動車（同乗含む）	57	81.4
家族の人数		
1人（独り暮らし）	14	20.0
2人	25	35.7
3人	14	20.0
4人以上	17	24.3
避難所の利用経験の有無		
あり	48	68.6
なし	22	31.4

回答者は、

- 年齢は70～80代
- 介護保険は非該当
- 外出手段は自家用車（同乗も含む）
- 家族は1～3人
- 避難所の利用経験がある人は約70%



調査の結果：避難行動意図の大きさ

- 50%以上の回答があった項目（5/18項目）

認知的要因	質問項目	回答（%）
効果評価	避難場所は津波に対して安全だと思う	全くそう思う (55.7%)
	避難場所までたどり着けば命が助かると思う	全くそう思う (51.4%)
コスト	避難をすると、支障が出てしまう大事なことがあると思う	ややそう思う (51.4%)
記述的 規範	津波警報が出たら、地域の人の中で避難する人は多いと思う	全くそう思う (57.1%)
主観的 規範	周りの人は私に対して「大きな地震のときはあなたも避難したほうがいい」と思っている	全くそう思う (57.1%)



調査の結果：避難所の各環境の重要さ

①避難所のスペース：70%以上の回答があった項目（7/26項目）

領域	質問内容	回答（％）
プライバシー	男女別更衣室，男女別休養スペースがある	とても重要 (77.1)
要配慮者	足腰の悪い人のための寝具が提供されている	とても重要 (75.1)
トイレ	トイレは安全で行きやすい場所にある	とても重要 (77.1)
	洋式トイレが設置されている	とても重要 (75.1)
	トイレは暗がりにならない場所に設置されている	とても重要 (75.1)
	トイレの個室内，トイレまでの経路に夜間照明が設置されている	とても重要 (78.6)
	トイレに鍵がある	とても重要 (82.9)



調査の結果：避難所の各環境の重要さ

②避難所の運営体制・ルール：70%以上の回答の項目（1/9項目）

領域	質問内容	回答（%）
運営ルール	女性用品は女性担当者が配布している	とても重要 (75.7)

③暴力防止・安全の確保：70%以上の回答の項目（1/6項目）

領域	質問内容	回答（%）
	暴力を許さない環境づくりが整備されている	とても重要 (70.0)



調査の結果：避難所の各環境の重要さ

④衛生環境・感染症予防：70%以上の回答の項目（4/5項目）

領域	質問内容	回答（%）
	感染症予防対策がされている	とても重要 (84.3)
	トイレの使用方法・汚物の処理などの衛生対策が行われている	とても重要 (85.7)
	トイレ専用の履物が使用されている	とても重要 (78.6)
	炊き出しを行う際は、調理の手順の表示や食品の管理、主要なアレルギーの有無の表示、残食の廃棄が徹底されている	とても重要 (74.3)



調査結果の考察：回答者の属性

- 研究協力者の約9割が女性高齢者だった※本発表は女性のみを抽出
- 介護が不要な後期高齢者が中心だった
- 地域で開催される通いの場や介護予防などに参加するのは、**健康な後期高齢者の女性が中心**となっている
 - 通いの場は類型を問わず「ほぼ全員女性」または「女性の方が多い」
(小林ら, 2022)



高齢女性≡災害時の要配慮者と捉えられる一方で、

地域にてコミュニティを形成して活動する健康な女性高齢者がいる



調査結果の考察：避難行動意図

- 避難行動の促進要因
 - 効果評価：避難場所に対する防災効果の認識
 - 東日本大震災後の災害復旧工事が完了
 - 記述的・主観的規範：地域での避難すべきという認識
 - 集団での災害公営住宅へ移転を経験＋通いの場などへの参加
 - 社会的な繋がりがある人は災害への備えが大きい (Hasegawa, 2018)
 - 女性高齢者が地域全体の避難行動を促す役割ができないか？
- 避難行動の抑制要因
 - コスト：避難行動による不利益の認識
 - 具体的な不利益の内容（支障が出てしまう大事なこと）は不明



調査結果の考察：避難所の環境

- 対象者が「**とても重要**」と捉える環境
- 女性への配慮
 - 男女別のスペース（休憩，着替え），女性用品の扱い，暴力
- 高齢者への配慮
 - 寝具の環境，トイレの環境※特に夜間の排泄
- 衛生への配慮
 - 感染予防，汚物処理，アレルギー対応



“健康で日常生活は自立”した女性高齢者の一方で，
加齢による身体的および生理的な変化への配慮を要する



研究結果の考察：女性活躍の視点

- 本研究は、福島県浜通り沿岸部に居住する女性高齢者の災害時の避難行動意図を調査した



- 通いの場などに主体的に参加する健康な女性高齢者がいる
- 彼女らの避難行動意図は“避難場所に対する防災効果”や“地域全体で避難すべきという認識”を有している



地域で互いに声を掛け合って避難行動を取る役割を担う

避難所では彼女らのニーズを反映し、運営にも部分参加する



研究結果の考察：女性活躍の視点

- 彼女らの避難行動意図は“避難行動による不利益の認識”があり、避難行動を阻害する可能性がある
- 彼女らは、加齢による身体的および生理的な変化を有する



平時から女性高齢者が認識するリスクや心身の変化に
どう対応すべきか互助や共助の観点で防災行動を計画する



地域の通いの場にて、防災を想定した活動に取り組む

- 避難行動のリスクを学ぶ、加齢変化への理解、避難行動を想定した介護予防など
- 自主防災組織（自治会、婦人会など）と一緒に防災訓練で日々の力試しをするなど



本調査研究のまとめ

- 地域の女性高齢者の活動や経験を地域の貴重な資源と捉えて、①地域防災への参画や避難所の運営者として役割が期待できるかもしれない、②女性十高齢者として配慮が必要な内容を平時から地域で検討する
- 本研究調査に回答いただいた福島県相双地域の住民の皆様、調査にご協力いただいた地方自治体の職員の皆様に感謝申し上げます
- 調査の全文は報告書をご覧ください

ご清聴ありがとうございました

